

# 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン(仮称)(答申案)概要

～すべてのこどもの「はじめの100か月」の育ちを支え生涯にわたるウェルビーイング向上を図るために～

## 育ちのヴィジョンを策定しすべての人と共有する意義

幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング向上にとって最重要

✓誰一人取り残さないひとしい育ちの保障に向けては課題あり

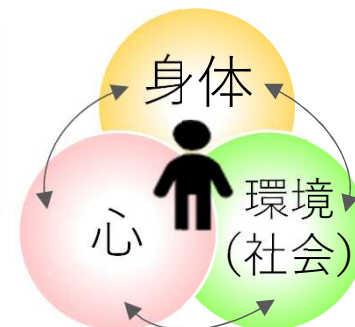
※虐待死の約半数が0歳児/就園状況含め家庭環境に左右されない育ちの充実

✓誕生・就園・就学の前後や、家庭・園・関係機関・地域等の環境間に切れ目が多い

⇒社会全体の認識共有×関連施策の強力な推進のための羅針盤が必要

**目的** すべてのこどもの「誕生前から幼児期まで」の時期から  
生涯にわたるウェルビーイングの向上

すべてのこどもの生涯にわたる  
身体的・精神的・社会的ウェルビーイング  
※バイオサイコソーシャルの観点での包括的な幸福



⇒すべての人のウェルビーイング向上にもつながる

## こども基本法の理念にのっとり整理した5つのヴィジョン

### 1 こどもの権利と尊厳を守る

⇒こども基本法にのっとり育ちの質を保障

- ✓乳幼児は生まれながらにして権利の主体
- ✓生命や生活を保障すること
- ✓乳幼児の思いや願いの尊重

### 2 「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める

⇒乳幼児の育ちには「アタッチメント」の形成と豊かな「遊びと体験」が不可欠



#### アタッチメント(愛着) <安心>

不安な時に身近な大人が寄り添うことや、安心感をもたらす経験の繰り返しにより、安心の土台を獲得

#### 豊かな遊びと体験 <挑戦>

多様なこどもやおとな、モノ・自然・場所・絵本など身近なものとの出会いにより、興味関心にあわせた遊びと体験を保障することで、挑戦を応援

### 3 「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える

⇒育ちに必要環境を切れ目なく構築し、次代を支える循環を作り出す

- ✓誕生の準備期から支える
- ✓幼児期と学童期以降の接続
- ✓学童期から乳幼児と関わる機会

### 4 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする

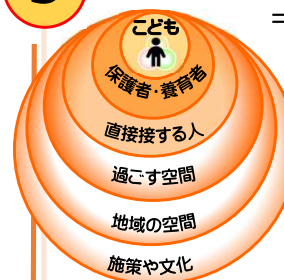
⇒こどもに最も近い存在をきめ細かに支援

- ✓支援・応援を受けることを当たり前
- ✓すべての保護者・養育者とつながること
- ✓男女ともに保護者・養育者が共育ち  
(養育に必要な脳や心の働きは男女差なく経験で育つ等)

### 5 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

⇒社会の情勢変化を踏まえ、こどもの育ちを支える工夫が必要

- ✓“こどもまんなかチャート”の視点  
(様々な立場の方がこどもの育ちを応援)
- ✓こどもも含め環境や社会をつくる
- ✓地域における専門職連携やコーディネーターも重要



#### 【「はじめの100か月」の育ちとは】

『育ちのヴィジョン』をすべての人と共有するためのキーワードとして、母親の妊娠期から幼保小接続期(いわゆる5歳児～小1)が概ね94～106か月であることに着目した概念

#### おわりに～実効性のある育ちのヴィジョンとするために～

こども大綱の下に策定する「こどもまんなか実行計画」の施策へ反映  
すべての人の具体的行動を促進するための取組も含め、こども家庭庁が司令塔となり、具体策を一体的・総合的に推進